

理事長 森 勉

昭和16年12月8日ハワイ真珠湾攻撃等で始まった米・英・蘭との大東亜戦争は、20年8月6日広島、9日長崎への原爆投下、14日御前会議におけるポツダム宣言受託決定、15日天皇陛下による「終戦の詔書」の国民への通告（玉音放送）、9月2日戦艦ミズーリ号艦上での休戦協定の調印で終わった。

国の内外で3百万人以上の尊い命を失い、外地から6百万人を超える邦人が帰還し、非人道的な無差別爆撃で主要都市は焦土と化し、建国以降初めて外国軍の占領・統治を許すという衝撃的かつ屈辱的な敗戦であった。

連合国最高司令官マッカーサー元帥統治の下、国民主権・基本的人権の尊重・非武装平和主義を3大原則とする暫定的な憲法の制定、陸・海軍の解体、財閥の解体、農地解放、教育制度の改革等日本の民主化が推し進められた。一方、日本弱体化政策によりわが国固有の歴史・伝統・文化・道徳等が否定され、東京裁判等により自虐史観を植え込まれ、大和民族の誇りと魂を喪失してしまつた。

昭和27年4月28日サンフランシスコ講和条約が発効しわが国が主権を回復した時、昭和39年アジア初の東京オリンピックを開催した時、昭和43年戦争の生存者のひたむきな努力によりGNPが世界第2位になった時、昭和から平成に御代がわりした時等、時代の節目では戦後は既に終わったという議論が盛んに行われた。今年の平成から令和への御代がわりでは平成が戦争のない平和な時代であり、これに感謝し将来にわたって継続することを願う議論が主体で、戦後の終わりという議論は消滅してしまつた。

非武装平和主義（憲法9条）では、わが国の平和と独立を維持できないという現実的な政治判断から、自主憲法を制定することなく日米安全保障条約を締結し、占領軍であった米軍の駐留を継続させ、軍隊ではない自衛隊という強力な防衛力を保持している。まさに国家による大いなる怠慢・欺瞞、そして国家が徴兵し国家のために戦陣に斃れた英霊の慰霊を国家が放棄しているという、国家による余りにも無責任な不作為がある限り私の心の中の戦後は終焉しない。私は、父がビルマのアカヤブ戦線から奇跡的に生還し昭和22年の8月に生まれ、その後約40年間陸上自衛隊に奉職した、まさに戦後の困塊世代の申し子であるから。